

研究と人と社会をつなぐ、コーディネーターを目指して

城野理佳子 (北海道大学 産学連携本部 産学連携マネージャー)

仕事の内容とやりがい

今、大学にも「社会貢献」が求められています。私の仕事は、大学の研究成果を社会へ還元するため、大学の研究成果の一部を特許化したり、企業との共同研究をコーディネートして、産業に活かされるようお手伝いをしています。また企業からの技術相談にも対応しています。幅広い分野を担当しますし、特許や法律に関する知識や、企業的センスも要求されますので、学ぶことは多いです。また産学連携では人間関係も重要で、先生方や地域の公設試、支援機関など、たくさんの「仲間」を作り、協力しながら進めています。

進路決定のきっかけ

大学院に戻った当初は、当然研究者を目指していました。ですが、北大の研究室に移ってから地元の企業との共同研究を経験し、大学の研究だけでは産業化には繋がらず、その過程には様々な苦労と、また人と人との結び付きが大切であることを知りました。そこで自分が主体となって研究に進進するより、「世話焼き」な性格と企業での経験を活かし、様々な人と関わりながら研究者を支援する仕事したいと思い、当時の知財・産学連携本部に応募しました。

仕事と生活のバランス

研究室にいた頃は仕事と生活を上手く切り分けることができず、実験に合わせて生活しているようなところもあり、週末もほとんど大学に出ていました。ですが、知財・産学連携本部に変わってからは周囲の殆どが企業出身者で、きちんと仕事と生活を分けていたので、自分の生活スタイルを見直すきっかけとなりました。事務系のお仕事ですし、ある程度自分で予定を決められるので、メリハリは付け易いと思います。休日は趣味の神社巡りや、釣りなどのアウトドアを楽しんでいます。

進路選択に対してのメッセージ

研究職以外に博士号を活かせる仕事はまだ少ないかもしれませんが、博士と言うのは自ら課題を見出し、それを解決する能力だと捉えると、その幅はとても広がると思います。学生から見た研究者と実際の研究者にはかなりのギャップがあると思いますし、企業と大学でも研究に対する姿勢が全く異なりますので、自分に合った研究スタイルを考えてみるのも良いかと思います。また、理系でもマネジメント的な能力も必要になってきますので、専門以外にも幅広く学んでおくのと良いと思います。

<城野理佳子(きのりかこ)プロフィール>

- 1995年 茨城県立水戸第二高等学校卒業
- 1999年 東京農工大学工学部生命工学科卒業
- 1999年 日立化成工業株式会社入社 (感光性材料の開発に従事)
- 2004年 会社を退職し、東京農工大学工学研究科博士後期課程入学
- 2005年 北海道大学創成科学研究機構教務職員
- 翌年4月より北海道大学工学研究科博士後期課程に入学(社会人ドクター)
- 2007年 博士号取得
- 2008年 北海道大学知財・産学連携本部、翌年産学連携本部に改組、産学連携マネージャー

